



●関連サイト
Battery Park City Parks Conservancy
<http://www.bpcparks.org/>

ジャズ新時代の開拓者、クリスチャン・スコット・セプテットの存在感と次世代のホープ達の台頭

夏たけなわ、ニューヨークでは今年も連日どこかで野外コンサートが開かれている。大規模ステージを設営して大観衆を集めるものから、移動ステージでやってくるジャズ・モービルまで様々なイベントがある。マンハッタン島南端のバッテリー・パークでも野外コンサート・シリーズ「リヴァー&ブルース」が開催され、今年にはトランペット奏者のクリスチャン・スコット(a.k.a. クリスチャン・アトウンデ・アジュアー)が出演した。



ニューオリンズ生まれの新世代の代表、クリスチャン・スコット

ニューヨークの夏の野外イベントといえば、セントラル・パーク・サマーステージなど2ヵ月に及ぶ大規模イベントが代表的だ。しかし、ブライアント・パークなど市内の中規模公園でも、各自治会組織が独自のコミュニティ・イベントを企画、開催している。

自由の女神が鎮座するリバティ島に渡るフェリー乗り場からハドソン川沿いにかけて広がるバッテリー・パーク・シティ・エリアも商用ビルディングとコンドミニアムの間に多くの公園が点在し、夏の間、子供向けの娯楽をはじめ、アート展示、スポーツ・イベント、コンサートが多く開催される。対岸に自由の女神を臨み、芝生が広がるロバート・F・ワグナー・ジュニア・パークで開催されるのが、「RIVER & BLUES(リヴァー&ブルース)」である。今年7月10日から8月7日までの、毎週木曜日の午後7時から日没まで、5つのグループが登場した。ブルース・コンサート・シリーズとして、90年代後半から始まったこの音楽イベントは、2000年から、現在の「リヴァー&ブルース」となった。「リヴァー」とはもちろんハドソン川のことであり、ルーツ・ミュージックの故郷であり、川沿いにアメリカン・ミュージックが北上していったミシシッピ川をも表わしている。

今年にはジャズ系アーティストにもスポットが当たり、今回取材したオープニングの7月10日にはクリスチャン・スコット(tp)のニュー・グループ、8月7日のエンデ

「リヴァー&ブルース」は、対岸に自由の女神を臨む公園で開催される。



ィングにはサン・ラ・オーケストラが登場した。

1983年生まれのクリスチャン・スコットは、レイ・アームストロング(1901年生まれ)に始まり、ウィントン・マーサリス(1961年生まれ)やテレンス・ブランチャード(1962年生まれ)を経て、ニコラス・ペイトン(1973年生まれ)へと至るニューオリンズ・トランペットの血脈を受け継ぎながら、ヒップホップなど現代のアフロ・アメリカン・カルチャーを貪欲に取り込む、ニューオリンズ出身の新世代アーティスト。ドナルド・ハリソン(as)を叔父に育ち、ティーンエイジャーの頃には早くも頭角を現わし、2006年にコンコードから「Rewind That」でメジャー・デビュー。以降、同世代の才能溢れるプレイヤーを結集させて、リーダーとして次々に意欲的な作品をリリースしてきた。エスペランサ・スボルディング(b,v), ジェ

ラルド・クレイトン(p), ベン・ウィリアムス(b)ら現在のシーンを席卷している、80年代前半生まれの黄金世代の中でも最も求心力を持つ存在である。

若き才能を集結させたセプテット編成で臨んだコンサート

サマータイムのため、まだ明るい午後7時過ぎにコンサートは始まった。クリスチャン・スコットは、2012年にリリースしたアルバム「クリスチャン・アトウンデ・アジュアー」(Concord)で、自らをネイティヴ・アメリカン・ネームに改名。祖父がニューオリンズの4つのネイティヴ・アメリカンの部族を束ねる酋長だった自らのルーツを掘り下げ、またアフリカから強制連行された奴隷たちと混血したその歴史に敬意を表し、オリジナル・ネームを名乗り、自らのアイデンティティを主張した。新ランナップによるセプテットは

エレナ・ビンダー・ヒューズ(fl), ブラクストン・クック(as), ローレンス・フィールズ(kb), クリフ・ハインズ(g), ザック・ブラウン(b), コリー・フォンヴィル(ds)という、平均年齢25歳を切ると思われる若手メンバーである(前作までのレギュラー・メンバーはフィールズひとり)。

コンサートは、クリスチャンの同世代が狂倒的なプレイを披露した「クリスチャン・アトウンデ・アジュアー」から「ジハード・ジョー」。盟友レイ・フーチ(as)をゲストに迎えた「ニュー・ニューオリンズ」では、さらにパワーアップしたパフォーマンスが繰り広げられる。クリスチャンの激しいプレイを、ビンダー・ヒューズ、クックが受け継いで発展させ、ブラウン、フォンヴィルのリズムが煽り、ハインズのギターがスパイスの効いたコードを鳴らす。フィールズがトータルに音楽をまとめ上



Isadora Mendez-Scott
イサドラ・メンデス=スコット(vo)

げているのが印象的だ。

ここで、ステージにイサドラ・メンデス=スコット(vo)が登場。クリスチャンが、アルバム『Live at Newport』(Concord 2008年)で、美しいバラッドを捧げた愛妻だ。彼女がオリジナル曲を歌ったあと、クリスチャンはマイクを手に取り、ニューオーリンズのネイティヴ・アメリカンとアフロ・アメリカンの歴史について、熱くアジェーションをしながら客席に降りる。ステージと客席が“コール&レスポンス”で一体となった。

陽がだいふ傾いた頃、エンディングを飾ったのは、ハービー・ハンコック(p.kb)の「ジ・アイズ・オブ・ザ・ハリケーン」。文字通り、嵐のごとく駆け抜け、長い夏の一日が終わった。10月にはこの新メンバーでのレコーディングを行ない、2015年春にリリース。日本ツアーも予定されているという。すぐそこに、90年代前半生まれの次世代ミュージシャンの台頭が迫っていることを感じさせるライブ・パフォーマンスだった。 ■



Christian Scott(a.k.a. Christian aTunde Adjuah)
クリスチャン・スコット(tp)



Elena Pinderhughes
エレナ・ピンダーヒューズ(fl)

アフロ・アメリカン&ネイティヴ・アメリカンのルーツに真摯に向き合いながら活動を続けるクリスチャン・スコット。「リウアー&フルース」のステージでも、演奏中に客席に降り、熱いアジェーションを繰り広げた。



SET LIST

1. Jihad Joe
2. New New Orleans (King Adjuah Stomp)
3. Neon Lights (Isadora Mendez-Scott)
4. New Orleanian Love Song
5. West of The West
6. The Eye of The Hurricane (Herbie Hancock)



Lawrence Fields, Zach Brown, Elena Pinderhughes, Corey Fonville, Christian Scott, Braxton Cook & Cliff Hines (L to R)
左から、ローレンス・フィールズ(kb)、ザック・ブラウン(b)、エレナ・ピンダーヒューズ(fl)、コリー・フォンヴィル(ds)、クリスチャン・スコット(tp)、ブラクストン・クック(as)、クリフ・ハインズ(g)